

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	支え合い・自立・開放・前向きを理念とし、実践している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的にカンファレンスを設け、疑問や新しい試みなどを共有している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約時に説明をし、ホーム内の見やすいところに掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩時やスタッフの通勤時などにも挨拶を欠かさず行っており、また定期的に催しなどを企画し遊びに来てもらえるようにしている。	○ 理念の“開放”の通り、地域の方が気兼ねなく訪問できる施設作りを目指していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所の運動会に見学参加させて頂いたり、自治会の防災訓練に参加したりと、地域との交流に努めている。	○ 地域への幅広い参加と交流を目指していきたい。

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に、地域の高齢者等へ役立つことという取り組みは行っていないが、ホームの行事等への参加を呼びかけ、ホームについて知ってもらい、身近なものだと感じてもらえるように、取り組んでいる。また、時々、近所の方から介護についての相談があり、対応できる範囲で相談にのったりすることもある。	○	地域へのさらに根付いた活動や交流を目指していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、改善点を会議で話し合ったりしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、行事等ホームの近況を報告、意見交換している。また、利用者の方と委員が触れあえる機会を作り、より一層、ホームについて理解してもらい、より開かれたホームを目指している。	○	会議がホーム側からの一方的な場とならず、委員がより活発に参加できるように議題や会議の方法について、有効な方法がないか検討し、実践していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回、宇治市より介護相談員に来てもらい、サービスの向上に勤めている	○	介護相談員と相互理解を深め、より充実した機会にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度利用者については、手続きの支援をおこなっている。	○	職員全員が制度について知っているわけではないので、権利擁護に関する制度についての勉強をし理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、ホーム内で虐待防止への研修を行い、機会があれば、外部の勉強会にも参加し、スタッフ全員が虐待防止について熟知した上で業務に携わっている。	○	今後も虐待防止に努め、また虐待を未然に防ぐためにもスタッフ同士の協調を深めていきたい。

グループホームメイプルリーフ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書及び重要事項説明書を十分説明し、理解していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	宇治市より介護相談員に来てもらい利用者が直接相談できる機会を設けている。また以前より苦情相談窓口を儲け施設内に掲示している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月の外出や様子を、毎月写真付きで通信として送付し、また別紙にて個人個人の健康状態等も詳しく報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のケアプラン説明時にケアマネ及び管理者が家族の意見をゆっくりと聴く機会を設けている。家族の来訪時には、職員が家族の意見・希望を聞き、相談にのるなどしている。また、運営推進会議に家族代表(1家族)として出席していただき、意見を聴き運営に反映させている。	○ 直接意見や不満等を言いにくいという可能性も考え、家族へのアンケートの実施を検討している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回定例会議とカンファレンスを開催し意見などの共有に努めている。また連絡ノートを活用しリアルタイムでの共有にも努めている。それに加え、年3回常勤面談、年1～2回非常勤面談を行い、職員は運営者に意見等を出す機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応をしていきたいが、現在は勤務時間帯の変更は行っていない。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年は、職員の入れ替わりがなく、落ち着いている。今後とも、職員の離職を最小限に抑えられるよう、風通しのよい職場環境を作っていきたい。	

グループホームメイプルリーフ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は、所長・リーダー・常勤について、1～3ヶ月毎に研修会を行っている。また、虐待防止や救命講習等については、それぞれ年1回研修を行い、全職員が受講している。外部研修については、実践者研修、防火管理者、連絡会等、積極的に受講している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入し、定期的に行われる勉強会や交流会に参加し、他ホームの職員と意見交換を行ったり、アドバイスを受けていたりしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>懇親会や研修会を実施し、1つのユニット内だけでなく、他のユニットの職員とも関われる機会を設けている。また、運営者により、職員に対し、面談や随時、意見等を聞く機会がある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各自で短期目標と長期目標を設け、それに向かって実行し、最後に自己評価を行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>積極的にコミュニケーションをとるように努め、本人の希望や要望を把握できるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを積極的に図り相談などにも真摯に向き合うように心がけている。また極力面会に来て頂けるように働きかけている。</p>	

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人・家族の話聞き、当ホームに限らず、その時に利用出来る可能性があるサービスの情報を提案することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と密に連絡を取り、利用者の細かい情報等をいただき、徐々に馴染めるよう工夫している。また、希望があれば、入所前にホームに来て頂き、ホームの生活を体験してもらうことも可能。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を大切に、家事など出来る事はしている。料理の得意な方から作り方を聞くなど、利用者職員がお互いに支え合う関係になるよう努力している。ある程度、生活の活動を利用者任せにしているので、利用者同士も支え合う関係ができています。また会話を楽しむ時間を大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時・電話・手紙等により、常にコミュニケーションを取りながら一緒に支え合う関係を保つように心がけている。また、これまでなかなか家族と利用者が一緒に何かをする機会がなかったが、行事への参加を呼びかけ、一緒に過ごしてもらう機会を増やすことができた。	○	家族が行事に参加する機会を作ることができたので、今後は、家族も主体となって、行事やホームの活動に参加出来るような体制作りを目指していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式に家族関係についても記入してもらったり、面会時等にゆっくりと話を聞く中で、家族関係についても把握するように努めている。また、本人からも家族の話をよく聞くようにし、より良い関係作りを目指している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望を聞き、以前住んでおられた場所や、家族が経営するお店に出かけるなどしている。こちらからも家族等に連絡を取り、ホームに来やすい状況を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活の場面で、ある程度利用者自身に任せているため、自然と利用者同士が声を掛け合い、助け合っていく関係ができている。お互いの名前を覚えておられる利用者も多い。	○	このまま利用者同士が関わり合える関係が続くように支援していきたい

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時に「いつでも遠慮無く声をかけて下さい」と声かけはしているが、現在退所者とのつながりはない。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作る際、利用者及び家族に、介護に対する意向や要望を聞いている。困難な場合にはケース会議にて本人本位のケアについて話し合っている。	○	センター方式を利用しているが、活用できていないので、しっかりと活用し、利用者の思いをより深く理解できるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のこれらの項目について家族に記入をしてもらい、これまでの生活歴の把握の参考にしている。また、本人や家族との会話の積み重ねの中からこれまでの生活を聞き出し、職員で情報を共有するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに沿って本人にとってより良い生活を支援できるように考えて行動している。また、本人や家族との会話を重ねることにより、より多くの情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議等で話し合いしたものを、ケアプランに反映させている。	○	もっと、本人、家族の意見、アイデアを反映できるような機会を作りたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回、半年ごとにケアプランを更新している。		

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記入し、スタッフ間の情報を共有し、日々のケアや、介護計画の見直しに、それを活かしている。また記録用紙の見直しを行いより見やすく書きやすくした。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を重視し柔軟な支援に努めている。(レンタル用品、往診依頼、外出等)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方がボランティアにきて下さり、歌を歌ったり、ヨガをしたりと活気ある生活を支援している。また、避難訓練等で消防署と関わりを持っている。緊急時に備えて、利用者・スタッフの人数や歩行可能な方の人数も把握してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院時のホームヘルプサービスなどを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡があった時などは伝達をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医がいるが、これまでのかかりつけ医に診てもらっている方もいる。また、一旦総合病院にかかっても、本人や家族の希望で、ホーム医に移行して診てもらったケースもある。		

グループホームメイプルリーフ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>緊急時において、落ち着いて対応出来るよう、病状についてや対処方法等について、日頃から知識を得られるように、勉強会等をしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人の尊厳を大切にし、居室に入る時は一声かけるなど、プライバシーに配慮した声かけや対応をしている。また、常に敬語での会話に努めている。記録に関しては、事務所に保管し、他者の目につかないようにしている。名前については、イニシャル記載するようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の思いを聞き出せるよう、何を食べたいか、何処に行きたいかの希望や自己決定を促す声かけの工夫をしている。意思を出すのが困難な方には、少数の選択肢を提示し、選んでもらうように声かけを行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にすることを第1に考え、職員の都合ではなく、利用者の話をじっくり聞く事や利用者本位の生活を大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洗面所や居室に見やすい鏡を置き、整容整髪の声かけをする。お化粧される方には声かけにて促すなど身だしなみの支援をしている。外出時には声かけをして、特におしゃれをしていく。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか希望を聞き、一緒に料理、盛りつけなど食事前より雰囲気作りをしている。後片づけも一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物に行き、好きな物を選んでもらい楽しんでもらっている。	

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握する為の表を作成している。失敗を減らす事で本人に不安感を与えず気持ちよく排泄できるよう支援している。また下剤の服用を見極め食物繊維加工食品や乳製品などを利用して薬だけに頼らない排泄を目指している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は固定してしまっているが、利用者の希望やペースにあわせた入浴介助を行っており、無理強いをしないようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	適度な休憩をしていただき、昼間はレクリエーションや外出を心がけリズムを作り、夜間は安眠をしていただけるよう心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来るかぎり、利用者自身で生活の活動を行ってもらえるように声かけを行うことで、利用者同士が助け合い、会話も多くなっている。裁縫や生け花、踊り等得意なことを披露する場面を多く作るように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は立て替えで行っているが、可能な方には、買い物に出た時などはレジにて支払いなどしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ひなたぼっこや散歩・買い物・ドライブ等、声かけをしてホームの中で過ごす時間が多くならないようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と相談しながら行きたいところを聞き、ホームでの計画外出や、家族とお墓参りなど行っていただけるよう支援している。		

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を書いたメモを居室に貼り、電話でのお話を促している。手紙やFAXなどのやりとりもしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者があった時は一緒にティータイムに参加して頂いたり、ホールで他の利用者とも関わられるようにすることで、家族より、ホームを身近に感じられ、気軽に訪問しやすくなったとの声を頂いている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を設け、スタッフ全員が熟知し実践できるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は開放している。夜間は施錠するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮し、全職員が常に緊張感を持ち安全対策に重視している。特に体調不良時などは巡回や見守りも強化している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時々に応じて取り組んでいる。簡易の鍵をつけたり、少し移動させる等の対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の話し合いなどをして「緊急事態王マニュアル」を作成し、スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。		

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が2年毎に普通救命講習を受けている。	○	普通救命講習だけでなく、現状に応じた勉強会を行い、緊急時に全職員が対応出来るようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。内1回は、消防署員に来てもらい、消火訓練をおこなっている。一時避難場所として、近隣の方の住宅をしようしてよいと声をかけてもらい、近隣の方の協力を得ている。	○	夜間設定での避難訓練を行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	施設の理念や思いを家族にも共感して頂き、積極的に話し合いを行うように心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを元に変化やサインを気づき、注意をし日々対応している。必要に応じて主治医や、家族と電話で連絡を取り合うなどして速やかな対応を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の効能、副作用についての表を作り、職員が内容を把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食品を摂取するなど工夫している。散歩で適度な運動を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夜必ず口腔ケアをしている。(月2回歯科衛生士の訪問あり)		

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、献立表に記入し、職員がバランスを考え調理を行っている。水分補給が困難な方については、個々の好みに合わせて提供し、十分な水分の確保に努めている。必要な方には、食事量・水分量をケース記録に記載し、把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	衛生面に気を付け職員及び利用者は外からはいる時、食事前等の手洗いうがいの励行をしている。緊急マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用後の衛生面に気を付け台所清掃、台ふき、まな板の消毒の徹底をしている。調理自主点検表を毎日記入している。食品の賞味期限の管理も徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームと分かるような手作り表札を置き、玄関回りには花壇を作っている。行事を行う際には、玄関前に掲示し、近所の方にお知らせしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家型のグループホームなので家庭的である。落ち着いていただけるようまぶしすぎない照明にしている。飾り物等で季節毎の生活感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人で過ごせる場所はないが、塗り絵が好きな方、テレビが好きな方等それぞれお気に入りの場所があり、座席の配置に気を配り、またその移動も希望にあわせて自由にできるようにしている。		

グループホームメイプルリーフ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とも、馴染みの物を持ってきていただいている。居室に家族との写真を貼り安心できるような空間作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内の温度計を見ながら適宜な温度を調整している。1日に数回の換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下に合わせた設備、共用空間等に設けられている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表示をしたり、のれんを飾ったり、馴染みの物で工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	水やり、清掃など自由に楽しんで出来る空間がある。居室の窓から見えるところにお花を置くなどしている。庭の椅子や玄関先のベンチでゆっくりとお茶や会話を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームメイプルリーフ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度は、①利用者の生活を大切に、②地域ともっと仲良くなろう、をホームの目標にあげている。①に関しては、職員は、利用者自身が、また、利用者同士が助け合って生活できるようにサポートし、出来る限り自立した生活を送ってもらおうよう努めている。②に関しては、従来の理念に加えてさらに地域に根付いたホーム作りを目指している。地域児童との交流をはじめ、各種イベントや催しの機会を増やし積極的に地域に配信する事で遊びに来てもらえる可能性を模索している。また、終末期へのケアに対しても各スタッフの研修参加や資料閲覧、勉強会などで理解を深め、その人らしい生活・ケアを目指している。